

お客様によるお手入れ

パタゴニア製品をお取り扱いいただくうえで、以下のお手入れ方法をご参照いただき、環境に与える不必要な悪影響を最小限に抑えてください。

洗濯排水は最終的にはいずれかの水路に流されます。それは海や川、あるいは自宅の近くを流れる小川かも知れません。通常、排水は地方自治体の廃水処理施設か民営の汚水処理システムで浄化されます。こうした廃水処理施設では、排水に含まれる洗濯洗剤や汚れは上手く取り除くことができますが、生物分解に時間がかかる物質や高濃度の化学薬品の除去には問題を引き起こすことがあります。

本ページでは、地方自治体および民間の廃水処理施設へ与える負荷を軽減し、その結果として環境への影響を最小限に抑える方法をご紹介します。ほんの少しだけ気を配り、日々の洗濯方法を見直してみてもいいかがでしょうか。

洗濯

- 1) できるだけ低温水で洗濯しましょう。温水で洗濯する場合、水を温めるために余分なエネルギーが必要となります。
- 2) 洗浄に必要な最短時間のコースを、洗濯量に合わせて選びましょう。
- 3) 洗濯物は洗濯機の容量いっぱい入れて洗うようにしましょう。洗濯物を小分けにして2度洗うよりも、1度にまとめて洗った方がエネルギー効率は良くなります。

乾燥

- 1) 乾燥機を使用する場合は、衣類を乾燥させすぎないように注意しましょう。過剰乾燥は繊維を傷つけ、色あせの原因となり、その結果衣類の寿命を縮めることとなります。また適度な水分を残すことにより静電気を防ぐことができます。
- 2) 衣類を傷めない範囲で、最高温度/最短時間のコースを選びましょう。高温で衣類を乾かせば、より短時間で効果的に作業が終了します。ただしこの場合も洗濯物の過剰乾燥には気をつけてください。
- 3) 乾燥後、まだ乾ききっていない衣類が混ざっていても、もう一度洗濯物すべてを乾燥機にかけることは止めましょう。乾燥後も湿っている衣類だけ、ハンガーに掛けて乾かしましょう。
- 4) 毎回の使用後に乾燥機のフィルターのカスを取り除きましょう。フィルターが詰まると空気の循環が阻害され、乾燥機の機能が低下します。
- 5) けれども何よりも良いのは、乾燥機を使わずに自然乾燥させることです。エネルギーを大幅に節約できます。

漂白

漂白剤はパタゴニア製品の取り扱い表示を確認してからご使用ください。それ以外でどうしても漂白が必要な場合には、塩素系漂白剤は避けて、過酸化水素系または酸素系漂白剤を使いましょう。

柔軟剤

吸湿発散性加工を施したパタゴニア製品には使用しないでください。柔軟剤は吸湿発散の機能を阻害したり、低下させたりするおそれがあります。衣類の過剰乾燥を避ければ、市販の柔軟剤を使わなくても肌触りは十分にやわらかです。

洗濯機/乾燥機

新しく洗濯機を購入する際はエネルギー・スター・プログラムの指標が参考になります。現在使用中の洗濯機によっては、今よりもエネルギー消費量が50%も少ない製品を探すことが可能です。乾燥機のエネルギー消費量に関しては、どのメーカーの製品も大差がないためエネルギー・スター・プログラムは適用されていませんが、電気乾燥機よりもガス乾燥機がおすすめです。日本では、<グリーン購入ネットワーク>のデータベース「エコ商品ねっと」<http://www.gpn-eco.net/index.php>を参考に選びましょう。また、特定非営利活動法人 日本消費者連盟が「どんな洗濯機を選ぶ?」（頒価300円）を発行しています。

ドライクリーニングおよびウェットクリーニング

米環境保護庁がドライクリーニングとウェットクリーニングに関する綿密な調査を実施していますのでご参照ください。<http://www.epa.gov/dfe/pubs/garment/ctsa/factsheet/ctsaFAQ.htm>（英語サイト）
なお日本においては、クリーニング業界が組織する<日本クリーニング環境保全センター>のサイト<http://www.zenkuren.or.jp/kankyo-hozen.htm>のなかに、ドライクリーニングによる揮発性有機化合物（VOC）の排出についての情報が掲載されています。